初めて「道しるべ」を見る方は、かならず 1 課を読んでから、他の課を読んでください。1 課には、全体的なこと・留意点などが記されています。

２課「買い物・食事」

＜行動目標＞

お店の人や友達と簡単なやりとりをして、買い物をしたり料理の注文をしたりすることができる。

＜3 つのスモールトピック＞

ＳＴ１「どこですか」
自分が買いたい物がどこにあるか聞くことができる。

ＳＴ２「いくらですか」
自分が買いたい物の値段を聞くことができる。

ＳＴ３「レストラン」
レストランで注文することができる。また、忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。

Ａ.【話してみよう】

１課で【話してみよう】の役割について以下のように記しました。まだ 2 課辺りでは①がとても少ない状況なので、②が中心となります。

① これまでに学んだ日本語、自分の知っている日本語を使ってたくさん話せるように教師は学習者に発話を促します。
（1 課は、スタートの課ですので「これまでに学んだ日本語」がゼロの場合もありますが、既習者にとっては、1 課でもいろいろ話すことができます。

② この課で学ぶことをイメージできるようにします。

また、教師は既習の語彙だけを使おうとするのではなく、ジェスチャーを交えながら次のように聞くのもいいでしょう。現場には、「教師は既習語彙を使わなければならない」という考え方があるようですが、それにとらわれ過ぎず、ジェスチャーなどを交えながら学習者に声をかけることもいいのではないでしょうか。もちろん教師自身が教科書においてどのように語彙・文型が組み立てられているかをしっかり把握しておくことは必要です。

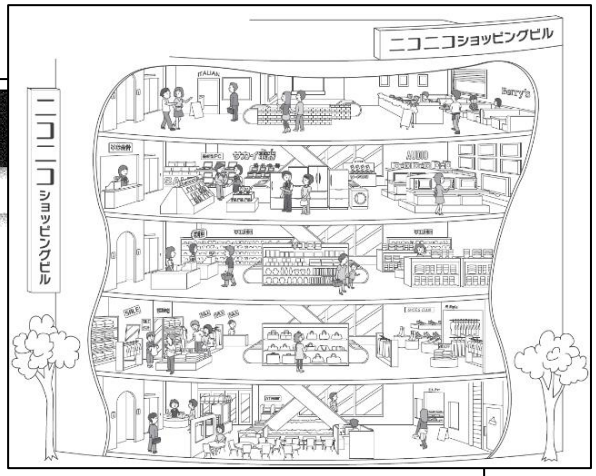
T：皆さん、買い物しますか。
　ショッピングしますか。
L：はい。
T：ここは……コンビニですか、スーパーですか。
L：コンビニです。
T：（ジェスチャーを交えて）
　コンビニへ行きますか。
L：はい。

＜ひと言アドバイス＞

身の回りの写真を撮っておくと便利です。コンビニ、スーパーは、学習者にとってとても身近な存在です。既に自分がよく使っているコンビニがあるかもしれません。そこで、何枚かコンビニの写真を用意しておくといいと思います。海外で学ぶ学習者にとっては、日本のコンビニを知るのも面白いですね。写真を並べて、「〇〇さんの国のコンビニは？」と言った聞き方もいいかもしれません。

B．【聞いてみよう】

２課の【聞いてみよう】には、3 つの場面「インフォメーションで」「4 階で」「レストラン」があります（場面がそのまま ST につながっています）。



もう一度聞こう

インフォメーションで

パク：すみません。サカイ電器は何階ですか。
店員：４階です。
パク：そうですか。ありがとうございます。

4 階で

店員：いらっしゃいませ。
パク：あのう、すみません。
　　携帯電話はどこですか。
店員：携帯電話はあちらです。
パク：ありがとうございます。
　　⋮
パク：すみません。
　　これはいくらですか。
店員：29,800円です。
パク：そうですか。
　　その携帯電話はいくらですか。
店員：12,000円です。
パク：そうですか。
　　じゃ、それをください。

レストラン

店員：いらっしゃいませ。こちらへどうぞ。
　　⋮
店員：どうぞ、メニューです。
パク：はい。どうも。
　　⋮
パク：すみません。注文をお願いします。
店員：はい。
パク：これは何のカレーですか。
店員：豚肉のカレーです。
パク：ぶたにく？
　　「ぶたにく」は英語で何ですか。
店員：「pork」です。
パク：そうですか。
マルコ：このビールはどこのビールですか。
店員：ドイツのビールです。
マルコ：そうですか。じゃ、カレーを２つと
　　ビールを２つください。
店員：カレーを２つとビールを２つですね。
　　少々お待ちください。

こちらへどうぞ　メニュー　少々お待ちください

ゼロスタートで、まだまだ音に慣れていない学習者には、場面を提示して聞いてもらったり、聞いたあとに「どの場面での会話」かについて聞いてみるのもいいでしょう。ここでは、「何を話していたか」が分かる必要はありません。これから勉強する内容ですので、全部分からないのは当然です。「どんなことを言っていたか」といった程度でＯＫです。

また、大切なこととして、教科書を一律に、同じ濃度で扱うのではなく、クラスによっていろいろ取り扱い方を変えてください。教科書にあるものを淡々と使って進めていくのではなく、「学習者に寄り添う」ことを忘れずに授業展開したいものです。

ちょっとひと言

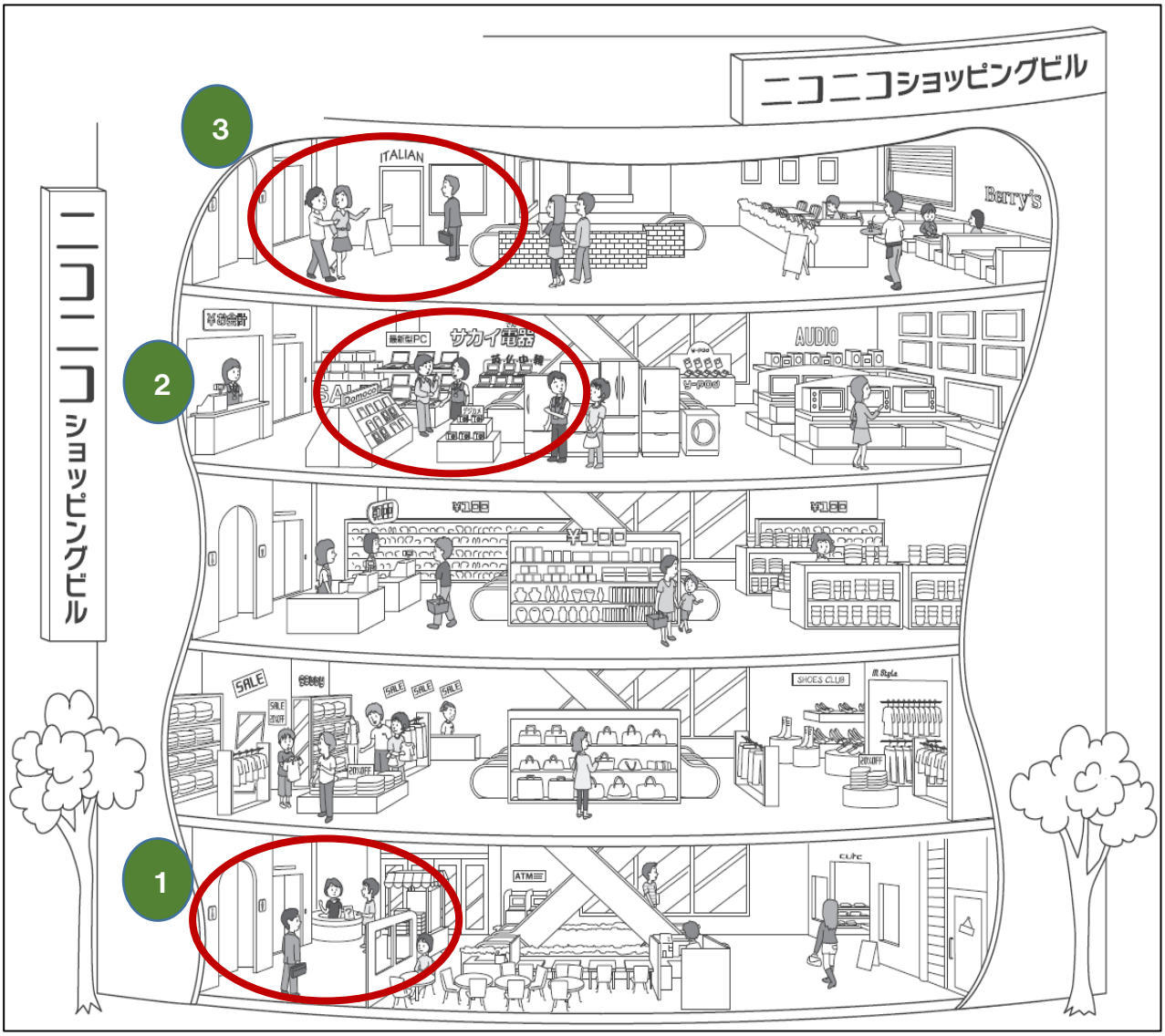
【聞いてみよう】には、エレベーターが開く音、メニューをめくる音といった効果音が入っているので、学習者が理解する助けになります。

何よりも自然な会話を聞くことができることで、「わくわく感」が高まります。

イラスト「ニコニコショッピングビル」は、教科書 32～33 ページにある状況イラストです。2 課はこのビルの中で行われる言語活動であり、バラバラの場面ではなく、文脈のある言語活動となっています。

新任研修をしているときのことです。「あっ、3 階に 100 均がある！へえ、細かいところにまで工夫がされているんですねえ～～～」と、参加した新任の先生がおっしゃったことば、とても印象的でした。作成過程では、常に学習者の言語活動を考えながら、学習者との対話の中から教材を作成していきました。

次のページにある「ニコニコショッピングビル」の地図に、1,2,3 と記しが付いています。これは、１＝ＳＴ１、2＝ＳＴ２、3＝ＳＴ３の場面を表しています。１つの状況イラストを見るときにも、そこに言語行動のつながりがあることをよく理解した上で進めてください。

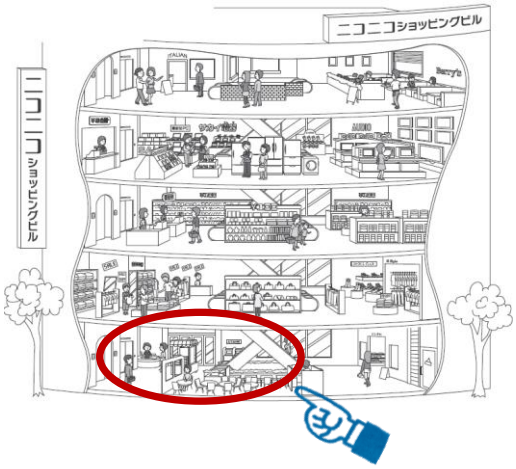


状況イラストの説明文：

ショッピングビルの案内所や売り場で店員などに場所を聞いています。

C　ＳＴ１「どこですか」

【チャレンジ！】1は、状況イラストの「１階受付」部分を指しながら、学習者に問いかけてみてください。



Ｔ：何ですか。
Ｌ：Information、ですか。
Ｔ：そうですね。

どこで行われている会話かがわかったあと、次は、コマイラストの中の左上の吹き出しを指します。

1

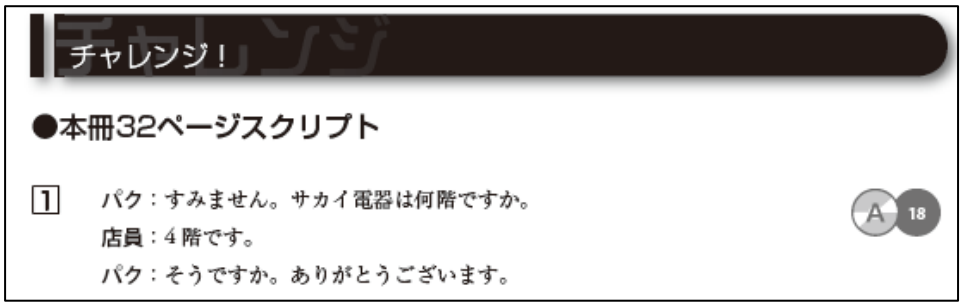
Ｔ：「サカイでんき」……。
Ｌ：「サカイでんき」は……。

ここでは、学習者が「何階ですか」を言えなくても、教師がイラストの中の【？】を指すことで、パクさんが何かを質問していることがわかります。それから、コマイラストの右側を指し、吹き出しの「4Ｆ」にフォーカスします。

Ｌ：ああ、よん、です。
Ｔ：そうですね。じゃあ、CD を聞きます。

このように、教師はこのチャレンジのポイントとなることに、学習者が意識を向けるよ

うに持っていきます。状況イラスト、コマイラストを有機的にリンクさせて授業を進めていきましょう。上のようなやり取りをした後、ＣＤを聞きます。すると以下のような会話が聞こえてきます。既にお伝えしましたが、【チャレンジ！】のスクリプトは、本冊ＣＤに入っていますので、それを参考にしてください。


チャレンジ！

●本冊32ページスクリプト

1　パク：すみません。サカイ電器は何階ですか。
店員：4 階です。
パク：そうですか。ありがとうございます。

A 18

そこで、「～は何階ですか／4 階です」という「言いたかったが分からなかった日本語のフレーズ」が耳に飛び込んできます。こうして、学習者自身で発見することができるのです。その後は、【言ってみよう】別冊➡本冊の練習となります。

別冊で「ここ・そこ・あそこ」が分かるように練習しますが、この単文は談話の中で使ってこそ意味があるということを忘れないでください

ひと言アドバイス

別冊に大半の時間をかけ、本冊の談話での練習は数分で終了、という授業があるようです。これは「何度も何度も口頭練習をしなければ、使えるようにならない」という教師の思い込みから来る間違いです。基本的なことをしっかり押さえることは重要ですが、場面・状況の中で練習することがとても重要です。

左のイラストは、状況イラストをよりシンプルにしたものです。こうして、【チャレンジ！】【言ってみよう】を同じ場面で学習を進めていけるように工夫しています。

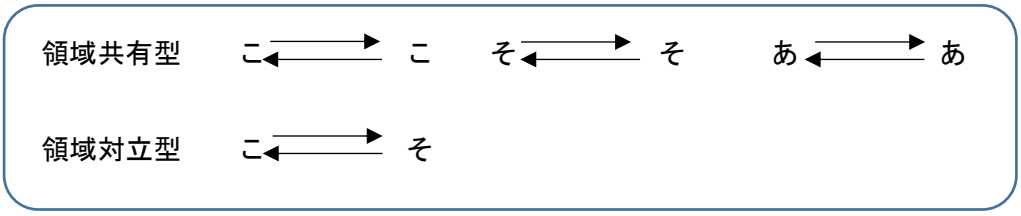
このイラストは、【言ってみよう】の「別冊」でも「本冊」でも使っています。あまりランダムにいろいろな物を出すより、同じ場面でしっかり使えるようにすることも大切です。その後、応用になります。

【言ってみよう】は、意味のないただのやり取りにはしないように気をつけました。初級教科書を見ると、「〇〇は何階ですか➡2 階です」といったドリルが多く見られます。しかし、『できる日本語』では、こうした練習でも次のような配慮をしています。

1　例）A：すみません。100 円ショップは何階ですか。
　　店員：3 階です。
　　A：そうですか。ありがとうございます。

人とつながるための日本語を学ぶには、こうした他者への配慮を考えたやり取りを、初級スタート時点から学ぶことが大切です。

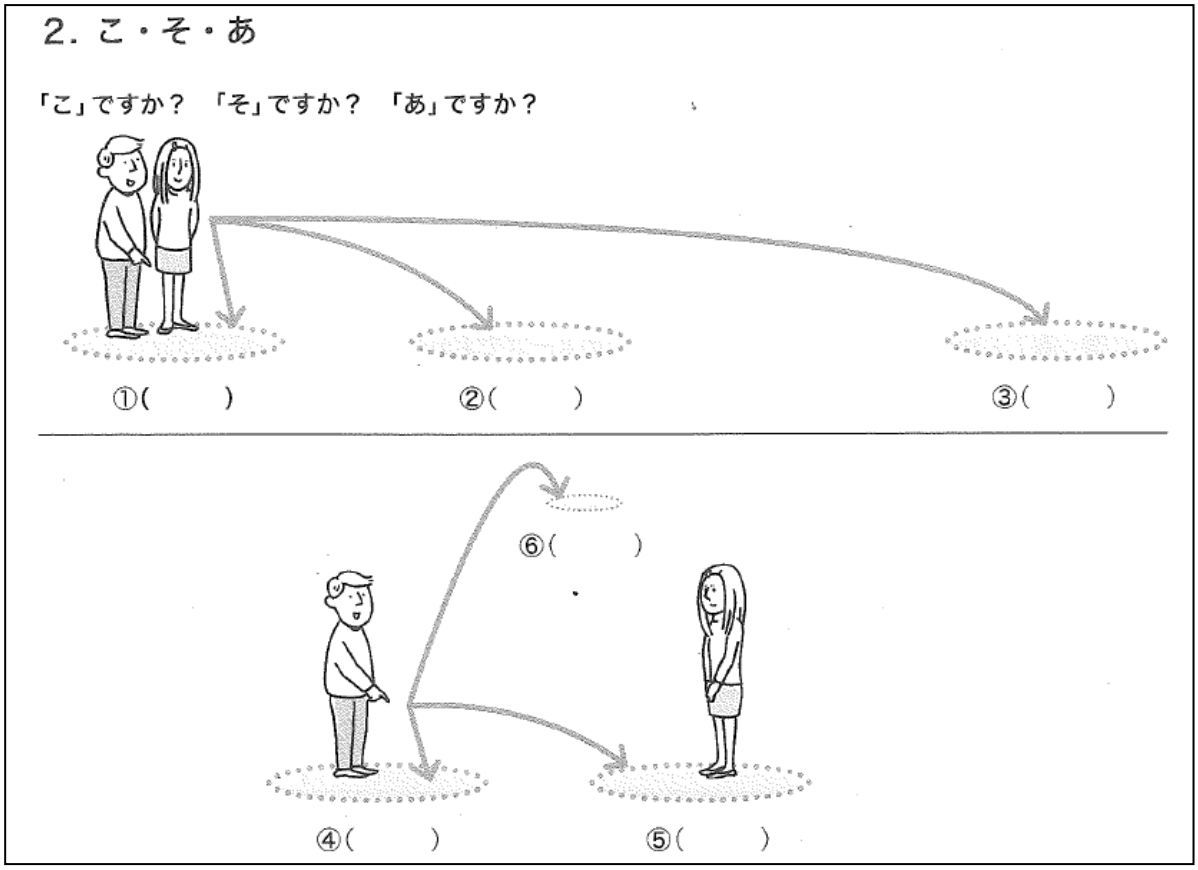
コマイラスト2に移りますが、2-1 では近くにいる人に「どこにあるか」を聞いています。2-2 では、店員さんに買いたい物の場所を聞いています。この「こそあ」の使い方のポイントに注意してください（初級 2 課で扱っているのは「現場指示のこそあ（実際に話している場面にある物、直接見ることができる物を指示すること）」だけです。



このことは、『わたしの文法ノート』の の 2（p.8）を見るとよくわかります。1 課でも述べましたが、初めて『できる日本語』を使って授業をする場合は、ぜひ『わたしの文法ノート』の （単文型を磨くパート）もよく見てから授業を進めるとよいと思います。また、

・ポイント一覧（教科書 p.270～p.281）
・シラバス一覧（教科書 p.299～p.302）
・スクリプトを見る（ＣＤを聞く）

なども役に立ちます。



2-1 の会話を見てください。単に「エスカレーターはどこですか→あそこです」といった練習にはなっていません。

例）A：あのう、すみません。エスカレーターはどこですか。
　　B：エスカレーターですか。エスカレーターはあそこですよ。
　　A：どうもありがとうございます。

まずAの最初の質問ですが、言いよどみ「あのう」で始まり、さらに「すみません」と言ったあとで、質問が来ています。こうした言い方を初級の最初から学ぶことが大切です。質問を受けたBさんは「エスカレーターですか」と繰り返している点にも気をつけてください。また、Bさんは繰り返した上で、「あそこですよ」と終助詞「よ」を付けています。『できる日本語』では、練習でも自然に終助詞を入れ込んでいる点が大きな特徴です。
なお、終助詞「よ」に関しては、6課ＳＴ３2に学習項目として出てきます。

A：一緒にお好み焼きを食べに行きませんか。お好み焼きはおいしいですよ。
B：へえ。ぜひ、行きたいです。

2－２は店員が答えていますので、「ここ→こちら」に変わります。これも自然な形で覚えられるのではないでしょうか。また、Ａさんの 2 つ目の会話では「あ、ありがとうございます」と「あ」が付いています。これは店員の答えを聞いて、「あっ、そうか。携帯売り場はここだったんだ！」という思いが込められています。

お客さん同士の会話2－１は「ここ、そこ、あそこ」、お客さんと店員の会話2－２では、店員は「こちら、そちら、あちら」になっていることにも学習者の注意を向けてください。

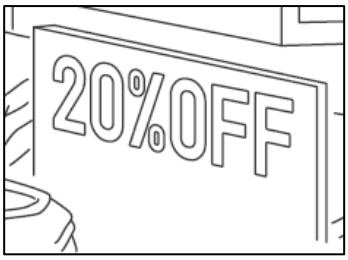
ひと言アドバイス

「こ」系、「そ」系に関しては領域対立型しか扱っていない場合もよく見られます。現場では、「『これは？』と聞かれたら、『それ』で答えます」などと機械的に教えるケースも見られます。しかし、実際の生活では、領域共有型もあるわけですから、学習者は両方あることをこの段階から意識しておくとよいと思います。

【やってみよう】のロールプレイですが、2 課の状況イラストを使うと、とても効果的です。いろいろなやり方がありますが、例えば、ホワイトボードに、拡大した場面イラストを貼りつけ、教室全体をショッピングビルに見立てて、学習者が動きながらロールプレイをするのもよい方法です。まだ２課ですので、音声と動作を大切にしながら授業を進めると、とてもワクワク感が出てきます。もちろん他のイラストや写真を持ってきても、面白い展開ができます。

Ｃ　　ＳＴ２「いくらですか」

場面はデパートですが、実はデパートではあまり値段を聞くことはありません。そこで、場面に「20％ＯＦＦ」を持ってきました。このように、出来るだけ現実場面に近いものを持ってくるように心がけました。



1は「これ・それ・あれ」の言い方と「いくらですか」という値段の聞き方を学びます。別冊には「いくらですか」の練習がなかったので、その点に気をつけてください。そして、2では「この・その・あの」を学び、3ではさらに「～をください」が学習項目となります。この課では１課で説明した があります。これは、「会話の一部を学習者が考えて話す」マークです。
「いくらですか」という練習に値段の指示がありません。学習者が品物を見ながら値段を考えながら答えるところに面白さがあります。

【やってみよう】では、「この・その・あの」の使い分けと店員の場合は「こちら・そちら・あちら」になることをＣＤで復習します。その後、イラストを見ながら、自分達で会話をしていきます。ＳＴ１で学んだことを繰り返して聞いていることがわかります。
ＣＤの１番～3番の会話は、以下のようになっています。

１．Ａ：あのう、すみません。サカイ電器は何階ですか。
　　店員：４階です。
　　Ａ：そうですか。ありがとうございます。

２．Ａ：すみません。携帯電話はどこですか。
３．店員：携帯電話はあそこです。

そして、ＳＴ２の会話に入るようになっています。このように、少しずつ復習をしながら新しいところに行く工夫がされている点が、定着をよくしていると言えます。

C　ＳＴ３「レストラン」

レストランでの会話ですが、1と2は、注文するときに分からない言葉があったら、どうやって聞き返すのかについて学びます。

【チャレンジ！】の会話

1　パク：すみませーん！
　　店員：はーい。
　　パク：あのう、「とんかつ」は何の料理ですか。
　　店員：とんかつは豚肉の料理ですよ。

2　パク：ぶたにく？すみません。「ぶたにく」は英語で何ですか。
　　店員：「pork」です。
　　パク：あ、そうですか。ありがとうございます。

別冊1は、「①イチゴ・ケーキ、②「野菜・ジュース」などと文字キューが並んでいますが、ここは写真やイラストを準備するとより効果的になります。

ちょっとひと言

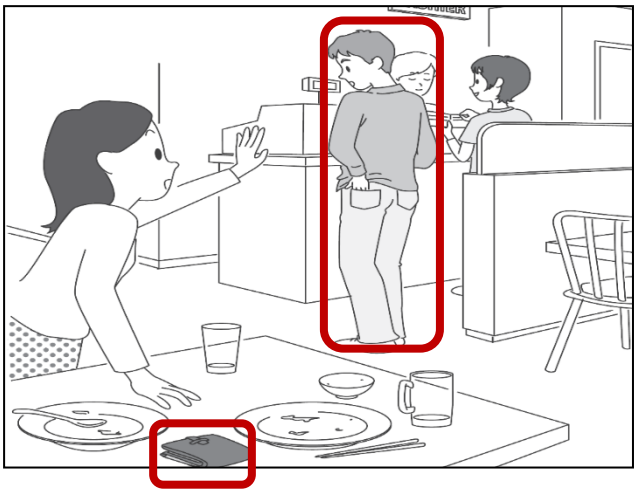
「～は何の料理ですか」の学習項目に、「とんかつ」を出したのは、「写真を見てもそれが何なのかが推測できない。どうしても店員に聞かないといけない物は何だろう」と著者陣が考えた末のことでした。彼らにとってこのフレーズはとても大切です。

余談ですが、『漢字たまご』では、「読めればよい漢字」として「牛肉・豚肉・鶏肉」を扱っています。本冊 42 ページには、この 3 つの漢字はルビを振って出てきていますので、学習者は既に目にしている漢字なので、とても楽しそうに読んでいます。

『漢字たまご』は、本冊より少し遅れて（2～3 課程度。ただし、クラスによります）やることによって、学習者の負担は軽くなります。知っている語彙や文型を使った、対話をしながら漢字を楽しく、効果的に覚えることができます。

もう 1 つ【チャレンジ！】5 を見ておきましょう。

状況イラスト：食事が終わってお金を払っています。



5

パク・ダニエル：ごちそうさまでした。

・・・

ワン：あ、財布。これは誰の財布ですか。
ダニエル：あ、それは私の財布です。
　　すみません。ありがとうございます。

このチャレンジを見ても、自然に「ごちそうさまでした」が出てきますね。また、「誰の財布」というのも、こういう場面状況だからこそ、学習者に明確に理解してもらうことができると言えます。このように『できる日本語』は、「場面状況と文型の融合」を図った教科書です。

【やってみよう】の会話は、できるだけ自然な会話にすることを心がけました。そのため、それまでに習っていない言葉や表現などが出てきます。たとえば、**「禁煙席・喫煙席」**や自分が食べたいものを注文するときに**「私（は）ハンバーグ」**などが出ています。こうした言葉・表現は学習者に合わせて紹介してください。

店員：いらっしゃいませ。こんにちは。何名様ですか。
ダニエル：3 人です。
店員：禁煙席と喫煙席、どちらをご利用ですか。

ダニエル：禁煙席をお願いします。
店員：はい、こちらへどうぞ。
パク：すみません！注文をお願いします。
店員：はい、どうぞ。
ワン：私、ハンバーグとライス。
ダニエル：私もハンバーグとライス。それから、ええと、このビールはどこのビール
ですか。
店員：ドイツのビールです。
ダニエル：そうですか。じゃあ、ビールを……。
ワン：あ、私もビール。
ダニエル：じゃ、ビールを 2 つください。
パク：あのう、これは何のカレーですか。
店員：鶏肉と野菜のカレーです。
パク：そうですか。じゃ、カレーとビールをください。
店員：はい、ハンバーグを 2 つとライスを 2 つとカレーを 1 つとビールを 3 つ
ですね。
パク：はい。
店員：かしこまりました。少々お待ちください。

2 課でこれだけの内容の会話を聞きます。学習者自身が言えなくても、聞いてわかればいい言葉・表現が含まれていることが分かります。**使用語彙・文型**（使えるようになる必要がある語彙・文型）と**理解語彙・文型**（聞いて分かればいい語彙・文型）に注目してください。

ロールプレイをする時は、実際のメニューも用意してやると、ワクワク感が高まります。ただし、メニューを選ぶとき、あまり情報量が多くなりすぎないように注意することも、とても大切なポイントです。

ちょっとひと言

私が日本語教師を始めた頃は、インターネットで検索をしてイラストを使うという方法がありませんでした。そのため、レストランやお寿司屋さんに行くと、「済みません。すてきなお品書きですね。教材に一部いただけませんか」などと、よくお願いしたものです。今では、さまざまなリソースがネットで手に入るようになりましたが、時には、学習者のよく行くお店、学校の近くのお店のメニューを使ってみてはいかがでしょうか。

Drink menu

■コーヒー

ブレンドコーヒー	¥350-
アイスコーヒー	¥400-
エスプレッソ	¥400-
カプチーノ	¥400-
カフェオレ	¥400-

■紅 茶

ホットティー（ストレート・レモン・ミルク）	¥400-
アイスティー（ストレート・レモン・ミルク）	¥400-

■ハーブティー

レモングラス	Blend	¥400-
カモミール	Blend	¥400-
ハイビスカス	Blend	¥400-
ジャスミン	Blend	¥400-
ルイボス	Blend	¥400-

■ソフトドリンク

オレンジ	¥400-
アップル	¥400-
コカコーラ	¥400-
ジンジャエール	¥400-
ミルク	¥400-
ゆず茶	¥400-

メニューを持ち込むときにも、日本語学習を始めたばかりの学習者にとってもわかりやすく、魅力的なものを選びたいものです。こうしたリソースの選び方一つで、学習者の発話量は変わってくると言えます。

D　【できる！】

いよいよ 2 課のゴールです。教科書には「教室でできること」として、フリーマーケットをやる案が出ています。これは１つの方法ですので、ぜひ 2 課の行動目標を見ながら、柔軟に進めてください。ここは教師の工夫の見せどころです。

また、一緒にクラスを担当している先生方と「このクラスでは、この課の【できる！】をどんなふうにしようか」と話し合って進めてください。まさに教師同士も対話で進める楽しさです。それは、【できる！】をやる段階ではなく、クラスのスタート時点で話し合いをし、さらに、その課に入るときに再度調整するなどの相談・準備が大切です。それが、「学習者にとっても、教師にとってもわくわくする授業」につながっていきます。

フリーマーケットをする場合は、いろいろな品物、品物の写真などを用意するとより効果的に進めることができます。また、フリーマーケットだからこそ、値段の交渉が行われることになりますので、５課ＳＴ２で出てくる「高いです」「安いです」なども自然に紹介していくのも一案です。ただし、これは学習者に合わせて実施してください。

ある実践例

いつもいろいろやり方を変えていますが、ここでは「フリーマーケット」を実施した時のアイディアをお伝えします。

お店の名前も、品物の値段も学習者同士で決めてもらいました。靴、パン、ワイン、バッグ、Ｔシャツ……いろいろ出てきました。そうそう、写真を持っていくといいですね。また、学習者にももってきてもらいましたが、実物を持って来た人もいました。また、変わった箱（空箱です）を持ってきたり、楽しそうでした。靴屋さんを覗くと、「イタリアの靴＝200,000 円、日本の靴＝20,000 円、ベトナムの靴＝500 円などと書いてあって、とても興味深いものでした。

ある実践例：

ある先生がこんな実践例を話してくださいました（*一つのエピソードとしてお読みください*）。

「教室の中で、3 人チームを作って、やり取りをしました。その後、学校のすぐ裏にあるパン屋さんに学習者と一緒に行きました。みんないろいろ買いたいものについて聞いていました。お店を出るとき、そうだ！と、あることを思いつきました。私のカバンをレジの前に置いて出たのです。すると、ある学習者が「あっ、カバン。これは誰のカバンですか」と、2 課で習った文型をしっかり使っていたんです。

Ｅ　【話読聞書】

2 課では【できる！】をやってから、【話読聞書】をすると流れとしては良いと思います。これも、クラスや学習者に合わせて柔軟に展開するようにしてください。

【話読聞書】は読むためのものではありません。2 課などは読むことはせず、学習者が「好きな店」を紹介したものを書いてもらい、それを読むという形のほうが効果的だと思います。『できる日本語』では、教師も学習者同様「自分の好きな店」を書くようにしています。